

令和3年度東アジアプロジェクト研究報告

○プロジェクト名

東アジアにおける文化伝承の研究

○研究組織

研究代表者：富平美波、高橋征仁

研究分担者：森野正弘、小林宏至、更科慎一、谷部真吾

研究協力者：なし

○研究の概要と結果

東アジアにおける文化の歴史と現代におけるその伝承のありかたを浮き彫りにするべく、プロジェクトメンバーの研究分野・特性を活かして、主に日中両国の古代から近現代にわたる幅広い研究テーマに取り組んだ。具体的には、『続通志』『七音略』や楽書『教訓抄』、『華夷訳語』乙種本等の文献研究のほか、近現代の日本及び中国漢民族の社会と文化、研究史的往還に関する研究を行った。また、メンバーを主たる執筆陣とする東アジア研究叢書『東アジア文化の歴史と現在』白帝社を編集・刊行した。

○研究成果の一覧

(1) 学会誌等（発表者名、テーマ名、学会誌名、巻号、年月日、ページ）

富平美波「『續通志』『七音略』の「門法解」に見える反切例について」『東アジア文化の歴史と現在』白帝社、2022年2月28日、95-121頁

高橋征仁「天譴論の進化心理学的基盤—災害を天罰と感じるヒトの心とその由来に関する一考察—」『東アジア文化の歴史と現在』白帝社、2022年2月28日、32-55頁

高橋征仁「表に出にくい人々の声を聞く—甲状腺がん患者たちの「当事者アンケート」意義と課題」、3.11甲状腺がん子ども基金編『原発事故から10年 いま、当事者の声をきく—甲状腺がん当事者アンケート105人の声—』3.11甲状腺がん子ども基金、2021年10月15日（ISBN: 9784991225109）、25-29頁

高橋征仁「子ども会の〈危機〉はどこから来るのか？」『やまぐち地域社会研究』19、2022年3月31日、1-17頁

Goodwin, R., Ben-Ezra, M., Takahashi, M., Luu, LA., N., Borsfay, K., Kovacs, M., Hou, WK., Hamama-Raz, Y., Levin, Y. (2022). Psychological Factors Underpinning Vaccine Willingness in Israel, Japan and Hungary. *Scientific Reports* 12, 439. doi.org/10.1038/s41598-021-03986-2.

森野正弘「『源氏物語』朝顔巻の桃園の宮に集う人々—歴史と物語の交錯する時空—」『東アジア文化の歴史と現在』白帝社、2022年2月28日、210-236頁

小林宏至「日本社会におけるアオの変化をめぐる一考察——日本における青鬼の色の変化を事例として」『東アジア文化の歴史と現在』白帝社、2022年2月28日、3-31頁

小林宏至 特集「方法としての華僑華人メシ」（特集にあたって／「華人メシ」という視座が拓く

- 展望)『華僑華人研究』(18)、2021年11月30日、82-86頁、139-146頁
- 更科慎一「『百夷館訳語』来文に見られる明代漢語の表音システムについて」『東アジア文化の歴史と現在』白帝社、2022年2月28日、122-155頁
- 谷部真吾「祭から見る遠州一西と東の接点一」『東アジア文化の歴史と現在』白帝社、2022年2月28日、56-76頁
- 谷部真吾「動画配信の影響力一静岡県掛川市の三熊野神社大祭を事例として一」『第16回無形民俗文化財研究協議会報告書 映像記録の力』(独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所 無形文化遺産部)2022年3月31日、47-53頁

(2) 口頭発表(発表者名、テーマ名、学会等名、年月日)

- 小林宏至「想像上の生き物から考察する近代的色彩表現：東アジア社会におけるシニフィエとしてのアオ色をめぐる」日本文化人類学会第55回研究大会 2021年5月30日 日本文化人類学会
- 高橋征仁「<子ども会の危機>はどこから来るのか?—Webアンケートにもとづく考察」第51回山口地域社会学会/第142回日本社会分析学会例会、2021年12月11日(山口大学)
- 谷部真吾「動画配信の影響力一静岡県掛川市の三熊野神社大祭を事例として一」東京文化財研究所第16回無形文化財研究協議会、2021年12月17日(東京文化財研究所)

(3) 出版物(著者名、書名、出版物名、年月日、ページ)

- 小林宏至『客家——歴史・文化・印象』飯島典子、河合洋尚、小林宏至、原著、周俊宇 中譯(担当:共編者(共編著者))、台湾:南天書局 2021年11月(ISBN: 9789865434328)(既刊本の台湾での翻訳)。
- 小林宏至(詹慕如訳)「第八章 茂木計一郎:東京藝術大學與客家建築研究」簡美玲、河合洋尚編『百年往返:走訪客家地區的日本學者』2021年12月、191-214頁(2022年国史館台湾文献館奨励出版文献書刊 優等賞 百年往返:走訪客家地區的日本學者 台湾国史館)。

(4) 科研申請・採択

- 新規採択:高橋征仁(代表)日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)「庇護主義を超えて—ポストコロナ時代のリスク意識に関する国際比較研究」2021-2024年度。
- 継続:小林宏至(代表)日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究「現代漢族社会における親族組織とサイバー空間」2020-2023年度。

○プロジェクト名

アジアの教育と文化におけるグローバル化

○研究組織

研究代表者:葛崎偉・森下徹

研究分担者:有元光彦・石井由理・北沢千里・熊井将太・佐々木司・鷹岡亮・高橋俊章・

中田充・松岡勝彦・山本冴里

研究協力者：なし

○研究の概要と結果

本プロジェクトでは、グローバル化が進むなかでのアジア各地域の文化の固有な局面を取り上げた言語学などの研究、あるいは理科教育、国際理解教育も含んだ教育方法・教育制度に関する研究など多面的な検討を進めてきた。2021年度の成果として著書・学術論文の一部については下記のとおりである。この他にも口頭発表が多くあり、成果目標値の達成は100%と判断できる。英文の成果も含めて、国内外への発信は十分になされている。

これらの研究は、国際連携、学校連携、地域連携など時間と地域を超えた連携を行いつつ、最終的には、本プロジェクトが一体となって様々な学問的貢献が可能になることを目指したものである。個々人は十分な研究業績をあげているとはいえ、今後はより具体的なテーマを設定した共同研究に着手することが必要と思われる。

○研究成果の一覧

(1) 学会誌等（発表者名、テーマ名、学会誌名、巻号、年月日、ページ）

劉伝霞・有元光彦「中国語における舌打ち音について—自然会話とインタビュー会話を対象として—」『山口大学教育学部 研究論叢』第71巻，2022年1月，335-344

石井由理・川崎千枝見「国際理解教育の一環としての「やさしい日本語」演習」『山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要』53号，2022年，7-14

石井由理・プトウ アユ アスティ センジャ プラティウィ「国民文化形成とローカル・アイデンティティ：バリの若者の音楽認識から見えるもの」山口大学教育学部『研究論叢』71巻，2022年，119-126

ISHII, Yuri, Dewi Pangestu Said and Putu Ayu Asty Senja Pratiwi “Localization, nationalization, and globalization reflected in the music-listening habits of young Balinese” 山口大学教育学部『研究論叢』71巻，2022年，127-136

植村拓海・山中明・北沢千里「コロナ禍における非対面方式での生物学実験—顕微鏡観察—」山口大学教育学部研究論叢，2022年1月，71: 247-254

Baba, T., Miyahara, C., Yamanaka, A., Kitazawa, C. Revealing the cells fated to form the cell mass in embryos of temnopleurid sea urchins. *Journal of Experimental Zoology Part B: Molecular and Developmental Evolution*, 2022年1月, 338(4): 254-269

山森光陽，岡田涼，山田剛史，亘理陽一，熊井将太，岡田謙介，澤田英輔，石井英真「教育研究の知見の統計的統合は何をもたらすのか」『教育心理学年報』第60巻，2021年，192-214

熊井将太「教授学はいかに希望を語りうるか—エビデンス主義を超えるために—」広島大学大学院人間社会科学部教育方法学研究室『教育方法学研究室紀要』第3巻，2021年，19-32

A.H.Setiawan, R.Takaoka, A.Tamrin, Roemintoyo, E.S.Murtiono, and L.Trianingsih: Contribution of Collaborative Skill Toward Construction Drawing Skill for Developing Vocational Course, *Open Engineering*, Vol.11, No.1, 2021年6月2日，755-771

- 鷹岡亮, 光原弘幸, 瀬戸崎典夫, 舟生日出男: 初等中等教育のデジタルトランスフォーメーション (DX) を実現する技術の動向と展望, 日本教育工学会論文誌, Vol.45, No.3, 2021年12月, 283-294
- 石川美佐子, 桑原里美, 梅本陽翼, 後藤大雄, 高橋俊章, 松谷緑, 藤本幸伸, 猫田和明「21世紀型の世界を生きる創造的で論理的な児童・生徒を育てる英語教育の在り方について」山口大学教育学部附属教育実践センター研究紀要 (52), 2021年9月, 35-44
- 甘泉, 呉韜, 中田充, 葛崎偉, 「カラーペトリネットによる東洋医学の人体モデルの構築」, 電子情報通信学会論文誌D J104-D(4), 2021年4月, 217-227
- Zhenyu An, Emiri Nonaka, Ren Wu, Mitsuru Nakata, Qi-Wei Ge, "Automatic Diagnosis of Tongue Using Mask-RCNN", Proc. ITC2021, 2021年6月, 295-298
- Quan Gan, Ren Wu, Mitsuru Nakata, Qi-Wei Ge, "Reconstruction of a Human Body Model of Traditional Chinese Medicine Using Colored Petri Net", Proc. ITC2021, 2021年6月, 396-399
- 楊航, 呉韜, 中田充, 葛崎偉, 「症状に基づいた鍼灸治療法の決定における機械学習の応用について」, 信学技報 121(250), 2021年11月, 52-57
- 村田蒼也, 呉韜, 中田充, 葛崎偉, 「東洋医学の間診および気血水スコアに基づいた臓腑状態の推定」, 信学技報 121(250), 2021年11月, 46-51
- 甘泉, 呉韜, 中田充, 葛崎偉, 「気・血・津液を含む東洋医学の人体モデルの提案」, 信学技報 121(250), 2021年11月, 40-45
- Quan Gan, Ren Wu, Mitsuru Nakata, Qi-Wei Ge, "Construction of a human body model for acupuncture and moxibustion treatment by colored Petri nets", Biosystems 210, 2021年12月, 104526-104526
- 安振宇, 呉韜, 中田充, 葛崎偉, 「東洋医学の舌診における画像認識ネットワークの分類精度の比較」, 信学技報 121(317), 2022年1月, 106-111
- 松岡勝彦(「幼児教育への行動コンサルテーション実践のさらなる発展を目指して」発達障害研究, 43(2), 2021年, 205-213
- 村田洋子・松岡勝彦「公立特別支援学校に在籍するASD生徒における他害の兆候となる行動を低減するための行動コンサルテーション実践」山口大学教育学部研究論叢, 71, 2022年, 191-197
- 山本冴里「崖っぶちの向こう側に踏み出して—センシティブなテーマを扱ったコミュニケーション教育の実践研究」言語文化教育研究学会『言語文化教育研究』19, 2021年, 131-153
- 山本冴里・富本浩一郎「日本の就学前幼児を対象とする「言語への目覚め活動」教材作成と試用の結果」日本外国語教育推進機構『複言語・多言語教育研究』9, 2021年, 65-81.

(2) 口頭発表 (発表者名、テーマ名、学会等名、年月日)

- 北沢千里, 植村拓海, 山中明「トゲイトマキヒトデにおける部分胚の発生能」, 2021年度中国四国地区生物系三学会合同大会香川大会, 2021年6月19日 (香川大学, オンライン開催)
- 上野翔也, 北沢千里, 山中明「サキアゲハの蛹体色発現に及ぼす環境要因影響」, 2021年度中国四国地区生物系三学会合同大会香川大会, 2021年6月19日 (香川大学, オンライン開催)

尼崎響子, 馬場彩樺, 高橋洋平, 北沢千里, 山中明「モンキアゲハにおける蛹体色発現に及ぼす環境要因の影響」, 2021年度中国四国地区生物系三学会合同大会香川大会, 2021年6月19日 (香川大学, オンライン開催)

北沢千里「直接発生型ヒトデ類における成体原基形成機構の解析」, 日本動物学会第92回オンライン米子大会, 2021年9月2日 (オンライン開催) (招待講演)

北沢千里, 植村拓海, 清水朝子, 森本悠哉, 山中明, 「直接発生型イトマキヒトデ科2種のブラキオラリア幼生期における部分個体の発生能」, 日本動物学会第92回オンライン米子大会, 2021年9月2日 (オンライン開催)

上野翔也, 吉松友祈野, 北沢千里, 山中明, 「ルリタテハ成虫における季節型発現調節について」, 日本動物学会第92回オンライン米子大会, 2021年9月2日 (オンライン開催)

北沢千里, 北林昂, 山中明, 「サンショウウニ科ウニ類4種の管足について」, 第17回棘皮動物研究集会, 2021年12月4日 (滋賀大学, オンライン開催)

上野翔也, 吉松友祈野, 尼崎響子, 馬場彩樺, 大野瑠璃, 前田瑞生, 北沢千里, 山中明, 「ルリタテハ成虫の脚にみられる色彩2型の調節機構」, 2021年度中国四国動物生理シンポジウム, 2021年12月18日 (オンライン開催)

上野翔也, 山城友考, 小島渉, 北沢千里, 山中明「ナガサキアゲハの蛹体色調節機構の解析」, 日本農芸化学会中国史部第61回公演会 (例会), 2022年1月 22日 (高知大学農林海洋科学部, オンライン開催)

高橋俊章「英語の定冠詞選択における「一般・特定」の役割分析」, 2021年全国英語教育学会第46回長野研究大会, 2021年8月7日 (オンライン開催)

松岡勝彦 (指定討論)「組織内部の人材をコンサルタントしたコンサルテーションの可能性の検討-内部あるいは半内部コンサルタントの可能性と今後の課題」, 日本特殊教育学会, 2021年9月17日

森下 徹「瀬戸内一丸尾崎港の開発」身分と地域研究会, 2021年6月25日 (オンライン開催)

(3) 出版物 (著者名、書名、出版物名、年月日、ページ)

劉伝霞・有元光彦「日本語会話の二連鎖感動詞類に関する予備的考察」『感動詞研究の展開』友定賢治編, ひつじ書房, 2022年3月, 145-164.

Nariakira Yoshida, Hiroataka Sugita, Shota Kumai, and Atsushi Fukuda, Lesson Study with multiple stakeholders: Community-based Lesson Study. In: Jongsung Kim, Nariakira Yoshida, Shotaro Iwata, Hiromi Kawaguchi(Eds.) "Lesson Study-based Teacher Education. The Potential of the Japanese Approach in Global Settings", Routledge, London and New York, 2021, 183-198.

熊井将太「エビデンス時代における教師の教育実践研究」湯浅恭正, 福田敦志編著『子どもとつくる教育方法の展開』ミネルヴァ書房, 2021年, 200-213

佐々木司「チャーター・スクール制度による「非通学型」学校の展開と課題」日本教育行政学会研究推進委員会企画, 横井敏郎他編著『公教育制度の変容と教育行政』福村出版, 2021年, 98-113

佐々木司「学校選択制」・アメリカ教育学会編著『現代アメリカ教育ハンドブック（第2版）』東信堂，2021年，70-71

鷹岡亮「第8章 情報教育の環境」『情報科教育法 これからの情報科教育』（鹿野利春，高橋参吉，西野和典 編著），実教出版，2022年1月，177-193

森下 徹，「奉公人」松尾美恵子・藤實久美子編『大名の暮らし事典』柊風舎，2021年月，641-646

○プロジェクト名

東アジアにおける社会，経済と企業経営

○研究組織

研究代表者：内田恭彦

研究分担者：有村貞則、立山紘毅、李海峰（退職）

研究協力者：なし

○研究の概要と結果

有村は、日本との比較を念頭に中国の障害者雇用法と障害者雇用の実態の検討を行った。結論として、中国では地域によって法定雇用率が異なる、合理的配慮の規定が明文化されていないなど、日本とは異なる特徴が見いだされた。また、国連の障害者権利条約に批准した成果がマクロベースで見た障害者雇用の実態に現れているかという点では中国の遅れが見出された。

内田は日本における中山間地域の経済的復興に向けた農産加工品の地域資産（ここでは芦生原生林）によるブランド効果が発現されるプロセスが、顧客の主体的な意味付けを一定方向に誘導する心的資産の影響プロセスであることを、また小規模店舗の顧客への利他的行動が心的資産として顧客に対していかなる影響をおよぼすのか、ということについて共同研究により明らかにした。

○研究成果の一覧

(1) 学会誌等（発表者名、テーマ名、学会誌名、巻号、年月日、ページ）

有村貞則（2021）「中国における障害者雇用法と雇用実態」『商経学叢』第28巻第1号、近畿大学商経学会。

(2) 口頭発表（発表者名、テーマ名、学会等名、年月日）

Yasuhiko Uchida, Kiyoshi Takahashi, and Takafumi Nakamori (2021), "Development of Value Added on Psychic Asset: an effect of Prior Image as a Semiosis", International Congress of Psychology 2020, July 21st, 2021.

Takafumi Nakamori, Kiyoshi Takahashi, and Yasuhiko Uchida, (2021), Marketing Research on Altruism as a Psychological Asset, International Congress of Psychology 2020, July 20th, 2021.

(3) 出版物（著者名、書名、出版物名、年月日、ページ）

なし

○プロジェクト名

東アジアを中心とする世界経済社会に対する感染症問題の影響

○研究組織

研究代表者：浜島清史（文責）・古賀大介

研究分担者：横田（尚）・石・仲間・渡邊・朝水・角田・山本（勝）・アケミク

研究協力者：なし

○研究の概要と結果

本グループでは、一昨年来、東アジア地域はもちろんのことに世界的に甚大な影響を与えている新型コロナウイルス感染症を念頭に置きつつ、「東アジアを中心とする世界経済社会に対する感染症問題の影響」というタイトルでのプロジェクトを組んできた。本プロジェクトは、それまで本グループが取り組んできた「東アジアにおける経済社会の転換」プロジェクトの継承的發展をめざす形で、一昨年度、喫緊性を有する社会科学的問題にチャレンジするものである。

申請時設定した定量的な成果目標値は以下の通りであった。※令和3年度終了時確認

(2) 成果目標：令和2年度終了時、以下の目標の8割以上を達成したい。

1. 科研費申請・採択 申請：10件（継続2件を含む）、採択4件（継続2件を含む）。
2. 論文： 10本（国際共著論文、分担執筆、学会報告を含む）。
3. その他（ワーキングペーパー等）：5件

それに対して、今回、下記のように、論文数、著書数で減少しているが、巡航速度に戻ったという印象である。一人で論文年1本、学会発表数年に1回というのが標準だと思っている。もちろん、国際共著論文や著書数も増やすべきだと思われる。

1. 科研費申請・採択 申請10件（継続4を含む）、採択4件（継続4件を含む）。
2. 論文：10本、国際共著論文数 1件（査読中を含む）、一般論数 9件（査読中を含む）
3. その他：学会発表数 4件

本グループでは、今年、東アジア地域はもちろんのことに世界的に甚大な影響を与えている新型コロナウイルス感染症を念頭に置きつつ、「東アジアを中心とする世界経済社会に対する感染症問題の影響」というタイトルでのプロジェクトを組むことにした。

プロジェクトは、既に記したように、学際性豊かなメンバーで構成されており、本年度も上記プロジェクトにおいて、各構成メンバーがそれぞれの専門領域の特性を生かしながら数多くの業績を上げてきた。研究成果の範囲に関しても、プロジェクトテーマとの関連性を有する研究、同

テーマを意識した研究等幅広くその対象とする。本プロジェクトは事実上、本年度後半からスタートする新規プロジェクトであったが、申請時の「第一目標」であった、「プロジェクト課題を念頭においた研究に取り組むことを基本とし、感染症問題の社会経済に対する影響の諸相・諸課題、特徴、また課題解決に資する数多くの知見を提起すること」に関連して、下記の一連のシンポジウムが位置付けられる。

当年度、山口大学では全学を挙げて、各学部でも特別の予算を当てて、新型コロナウイルスの問題に取り組んだ。その中であって、本プロジェクトは、とりわけ文系のグループとしてまさしく正鵠を射たテーマであるといえよう。

本研究では、各自予算を適宜使用し、さらに本プロジェクトのテーマに関連して、メンバーが、Covid-19に関する学長裁量経費プロジェクト研究報告会に参加（アケミク、角田、浜島）、『新型コロナウイルス感染症流行下における医療・福祉施設の経営状態と今後について：山口県の事例から』（プロジェクト代表：角田）等の報告書の公表、『東亜経済研究』令和3年8月号「特集：シンポジウム 東南アジアにおけるコロナ禍に関する社会制度・組織—いかにうごかすか、によせて」の刊行、シンポジウム「コロナ禍に関する社会制度・組織—いかに動かすか—Ⅱ」令和3年3月13日（日）阿南英明（新型コロナウイルス感染症神奈川県対策本部医療危機対策統括官）+島田眞路（山梨大学学長）、等を実施した。これらは必ずしもこのプロジェクト経費だけを使用したものではないが、メンバー各自、予算の使用と結び付いているに違いない。

今年度、その先を見据えて、来年度に回ってくる予定の学術予算を活用し、共同研究、学術シンポジウム、そしてそれらの成果を踏まえて、共著による学術書の刊行まで実施する計画を企図している。これこそ改善点の具体的記載といって余りあるものであろう。（文責：浜島）

○研究成果の一覧

(1) 学会誌等（発表者名、テーマ名、学会誌名、巻号、年月日、ページ）

朝水宗彦、姚博怡、周文婷（2020）「新型コロナ後の日本における短期外国人労働者」『山口経済学雑誌』69(1-2)、79-94

朝水宗彦（2021）「学生企画ツアーによるインバウンド観光発展の可能性」『山口学研究』第1巻、12-19（査読あり）

古賀大介（2020）「財務諸表にみる第一次大戦期のイギリスにおける銀行経営（上）」『山口経済学雑誌』第69巻3-4号、97-130頁

古賀大介（2020）「財務諸表にみる第一次大戦期のイギリスにおける銀行経営（下）」『山口経済学雑誌』69(5)、109-144、2021年1月

石 龍潭「行政訴訟的訴の利益——以日本撤銷訴訟為素材（行政訴訟における訴えの利益——日本における取消訴訟を素材として）」

角田由佳（査読付）：「在宅療養者に対する訪問看護サービスの変遷と現状分析：適用される保険の違いに着目して」日本學報、125巻、pp.285-302.

仲間瑞樹（2020）「消費税率と遺産税率の統合による経済効果—若年世代への公的移転政策の場合—」『山口経済学雑誌』第69巻1-2号、1-18頁

仲間瑞樹（2020）「消費贈与動機の安定性分析と贈与課税政策の中立性」『山口経済学雑誌』第69

卷3-4号、1-17頁

仲間瑞樹（査読付）（2020）「消費税財源による二世代への公的移転政策の経済効果」『弘前大学経済研究』第43号、12-24頁

仲間瑞樹（2021）「偶然遺産動機と若年世代への公的移転政策－日高（1990）を踏まえて－」『山口経済学雑誌 城下先生退職記念号』第69巻5-6号、1-28頁掲載予定

渡辺幹雄「①ジョン・ロールズ『政治哲学史講義』（2007年）－「J・S・ミル講義」を読む」『山口経済学雑誌』（68巻4号、令和2年3月）

渡辺幹雄「②ジョン・ロールズ『政治哲学史講義』（2007年）－「ルソー講義」を読む」『山口経済学雑誌』（68巻5号、令和2年3月）

渡辺幹雄「③ジョン・ロールズ『政治哲学史講義』（2007年）－「ヒューム講義」を読む」『山口経済学雑誌』（68巻6号、令和2年3月）

横田尚俊（2020）「復興まちづくりからみた都市コミュニティと市民社会」『日本都市社会学会年報』第38号、16-30頁

国際共著論文

Ali Akkemik and Murat Yülek (2020). "Imitation, Innovation, and State Capacity: What Do East Asian Industrial Policies Imply?" *Istanbul University Journal of Sociology*, vol. 40, no. 2, July 2020, pp. 701-722.

Ali Akkemik, Gerçek Çiçek, Charles Yuji Horioka, and Yoko Niimi (2020). "The Impact of a Failed Coup d'état on Happiness, Life Satisfaction, and Trust: The Case of the Plot in Turkey on July 15, 2016" *Applied Economics Letters*, vol. 27, no. 16, Aug 2020, pp. 1371-1375

Erisa Dautaj Şenerdem and K. Ali Akkemik (2020). "Evaluation of the Reform in the Turkish Electricity Sector: A CGE Analysis" *International Journal of Economic Policy Studies*, vol 14, no. 2, Aug 2020, pp. 389-419

DUTTA Arijita, ASAMIZU Munehiko (2021) "Basic Study on Health and Medical Tourism in Asian Countries", *Journal of East Asian Studies*, 19, 175-185

(2) 口頭発表（発表者名、テーマ名、学会等名、年月日）

K. Ali Akkemik "Panel Session: Technology, Innovation, Industry and Country Experiences" Smart Economic Planning and Industrial Policy Conference (SEPIP 2020) 2020年10月13日

K. Ali Akkemik, Keynote Speech: "Changing industrial policies in a new era" Smart Economic Planning and Industrial Policy Conference (SEPIP 2020) 2020年10月13日

K. Ali Akkemik "Worldviews and Intergenerational Altruism: A Comparison of Turkish People Living in Turkey and Germany" 日本経済学会2020年度秋季大会 2020年5月30日

Mizuki Nakama (仲間瑞樹) "Why Do You Love Me? –Introduction of a New Degree of Altruism into the Utility Function in Barro(1974)–", The 19th International Conference of the Japan Economic Policy Association, 2020年11月15日, Zoomによるオンライン開催

山本勝也「ポスト・コロナの社会経済構築にむけて—covid-19: the Great Resetは新自由主義を

克服しうるか」新自由主義研究会、2021年3月19日、ズームにて。

(3) 出版物 (著者名、書名、出版物名、年月日、ページ)

K. Ali Akkemik and Murat Yülek (2020). "Made in China 2025" and The Recent Industrial Policy in China" In Shigeru T. Otsubo and Christian Otchia (eds.), Designing Integrated Industrial Policies: Industrial Promotion for Inclusive Development under Globalization, London: Routledge, October 2020, pp. 335-362

K. Ali Akkemik (2020). "Kalkinmaci Devletten Finansallasmaya: Japonya Deneyimi" [From Developmental State to Financialization: The Japanese Experience]. In Murad Tiryakoğlu (ed.), Devletle Kalkinma, İstanbul: İletisim Yayınevi, October 2020, pp. 279-322 (トルコ語)

K. Ali Akkemik (2020). "Japonya'da Yerli Üretimin Politik Ekonomisi" [Political Economy of Domestic Production in Japan]. In Murad Tiryakioglu (ed.), Türkiye'nin Yerli Üretimi ve Politik Ekonomisi, İstanbul: Bilgi University Press, November 2020, pp. 349-356 (トルコ語)

朝水宗彦編 (2020) 『インバウンド観光と留学生』 くんぷる

石 龍潭 (単著) 『日本行政訴訟之訴訟の利益』 (中国政法大学出版社、2021年2月)

角田由佳 (2020) 『看護サービスの経済・政策論—看護師の働き方を経済学から読み解く 第2版』 医学書院

(4) その他

K. Ali Akkemik "Industrial Development and Industrial Policies in the Age of IR4: Challenges for Turkey and Lessons from Japan" International Panel - New World in Post-Covid Period: Perceptions from Turkey and Japan 2021年3月19日

K. Ali Akkemik "Assessment of Japanese and Chinese Economies In Light of the Fourth Industrial Revolution" ウェビナー TOBB-ETU University (Turkey) 2021年2月19日

K. Ali Akkemik "Recent Developments in the Japanese Economy" ウェビナー Istanbul Kultur University (Turkey) 2020年12月11日

浜島清史 「新型コロナウイルス禍とシンガポールの外国人労働者問題」East Asian Forum2020年4月号.

現在、山口大学では全学を挙げて、各学部でも特別の予算を当てて、新型コロナウイルスの問題に取り組もうとしている。その中であって、本プロジェクトは、とりわけ文系のグループとしてまさしく正鵠を射たテーマであるといえよう。かかる一環としての、シンポジウムであり、各回、本グループメンバーの参加もあり (計5名、延べ10名)、活発な議論が展開された。今後、実りあるものとなっていくであろう。(文責：浜島)

記

東南アジア諸国におけるコロナ禍に関する社会制度・組織—いかに動かすか—

1) シンガポール: 令和3年3月25日 (木)、2) 台湾: 3月26日 (金)、3) 日本・韓国・中国:

3月30日（火）

申込・参加者としては、東大社研現代中国研究拠点トップ、アジア経済研究所研究者3名、東アジアのジェンダー研究者数名、医療関係者（日本病院会副会長、慶応義塾大学医療政策・管理学教室）、マスコミ関係者（共同通信論説委員、毎日新聞記者）等があり、それと本学人文学部の災害（社会）学の専門家、経済学部の各分野の研究者、その他、院生などである。